

第8回幼児教育実践学会 ポスター発表 企画趣旨概要一覧

平成29年8月19日(土) 10:50~13:10

- ① 福岡県:藤内由加里(曾根ひかり幼稚園教諭)、那須信樹(東京家政大学こども学部教授)、江藤悠紀(曾根ひかり幼稚園教諭)
テーマ:「いのち」を学ぶ保育～園生活の中で「いのち」を感じたり、学んだり、大切にしたりする気持ちを育てる～
本園は浄土真宗の教えを心のよりどころとし、幼児の心の中に「自分を大切に思う気持ち」「他者への思いやり」「感謝する気持ち」「規範意識」などを育てていくことを大切にしている。日々の保育の中で行なっている心の教育を今一度見直し、保育者間、また園と保護者間における共有・連携の在り方を再考し、より深めていけるようにしていくことをねらい、このテーマで研究を進めた。
- ② 岡山県:虫明淑子(中仙道幼稚園副園長)
テーマ:幼稚園における子育て支援に関する実践研究 キーワード…親支援、障害受容、アート、地域
大学院修士課程在籍中に執筆した論文、①幼稚園における親支援の方向性、②交換日記にみる母親の障害受容の過程と教師の言葉掛けとの関係—幼稚園教育における親支援の事例研究—(『教育実践額論集』第17号掲載)、③交換日記にみる母親の障害受容の過程—幼稚園教育における親支援の事例研究—(『保育学研究』第54巻3号掲載)、④幼稚園におけるアートと保育が融合する地域子育て支援の試みのうちから抜粋。具体的内容については今後検討する。
- ③ 北海道:成田美雪・岩田美鈴・青木麻由(新善光寺学園しろいし幼稚園教諭)
テーマ:保護者に保育を伝える
今年度から開始したポートフォリオについて、自分たちの思いをまとめたものを発表します。
- ④ 大阪府:塩飽和也・佐藤愛沙(幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園指導保育教諭)、中川沙希・藤井邦子(幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園保育教諭)
テーマ:園庭遊びをとらえ直す(園庭プロジェクト)
当学園は園庭の環境の改善に力を入れ、自然物を増やし、固定遊具の改装をおこなった。しかし、どうしても園庭面積が狭い為遊びが混在したり、それぞれの遊びのねらいがあいまいになったりと、保育者自身がこの環境を十分生かし切れていないと感じていた。その現状を何とかしようと、今年度から「園庭プロジェクト」を立ち上げ、本格的に園全体で園庭の環境や遊びを見直そうと取り組み始めた。今回の発表を機会に、自分たちの実践を整理し、様々な意見を聞きたい。
- ⑤ 大阪府:三倉敏浩(豊中あけぼの保育園保育主任)、中橋美穂(大阪教育大学准教授)、東郷友美子(豊中あけぼの保育園主任)
テーマ:異年齢縦割り保育が織りなす、生活保育の深まりについて
園舎の建て替えを機に、幼児は3～5歳児縦割りクラスを2クラス位置づけ、5年間の実践を行ってきた。3歳児と5歳児がバディーを組み共に生活する中で、育つ力や経験する感情に着目。その中で当園のポリシーとして掲げている「生活保育」をどう織りなし、豊かな子どもの居場所作りに繋がるのか検証していきたい。
- ⑥ 北海道:丸谷雄輔(札幌ゆたか幼稚園園長)、鹿谷梢・谷平友香里(札幌ゆたか幼稚園教諭)
テーマ:追跡!!環境を通しての育ち～充実したコーナー作り～
子ども達が主体的に遊びを展開していく力や、友達関係を広げていくきっかけになるよう、今の子ども達に合った環境を用意し、実際に遊ぶ子どもの姿からその環境がどうであったのか、何が必要なかを考え、試行錯誤してきた。このような継続した環境作りの中でも「教室のコーナー」に焦点を当て、学年ごとに取り上げ追跡していく。発表を通して学びを深め、更なる研究につなげたい。
- ⑦ 大阪府:有友順子(幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園主幹保育教諭)
テーマ:食育を通して育つ力～食べるの大好きな子どもに育て～
子どもが「自分でやってみたい」「どうしたら出来るのかな」と考え、興味を持ち、主体的に取り組む意欲を「食」を通して大切に育めるよう、日々の保育や行事の中での保育で、保護者も巻き込みながら行っている。「食」を通して育とうとする力や育つ力を引き出せるよう、楽しく美味しくを目指して園の保育者が試行錯誤しながら提供してきた様々な姿を紹介したいと思う。
- ⑧ 北海道:三島徳子(認定こども園星の子幼稚園副園長)、坂上めぐみ(認定こども園星の子幼稚園)、酒井義信(札幌大谷大学非常勤講師)
テーマ:「遊び保育論」による実践～環境の変容～
保育の実践に本格的に「遊び保育論」を取り入れて2年目になる。各年齢の発達について、設定保育を重視していた過去の保育と比べながら、子どもの変容について考察する。

- ⑨ 北海道:長山梨恵(認定こども園星の子幼稚園主幹教諭)、小清水麻衣(認定こども園星の子幼稚園学年主任)、酒井義信(札幌大谷大学非常勤講師)
テーマ:「遊び保育論」による実践～子どもと保育者の変容～
 保育の実践に本格的に「遊び保育論」を取り入れて2年目になる。各年齢の発達について、設定保育を重視していた過去の保育と比べながら、子どもの変容について考察する。
- ⑩ 北海道:伊藤あゆみ(幼保連携型認定こども園おかだまのもり園長)、高畑理那・巖城彩香・大島智子・近藤史華(幼保連携型認定こども園おかだまのもり保育教諭)
テーマ:子どもが育つための環境について～乳児・幼児共に遊び込める園庭とは～
 昨年度、幼稚園から認定こども園になり、園庭も夏に大工事をして、『運動場から子どもが嬉々として遊び込める園庭』に生まれ変わりました。保育教諭がリスクとハザードをしっかりと見極めての環境整備の中、子ども自らが意欲的に遊びを見つけ、0歳から5歳の子どもたちが共に！別々に！とこの園庭で遊び込み、それを保育教諭が見守ることで、様々な育ちや非認知能力を育てたいと願い、日々悩みながら保育を進めています。更に学びを深めたいと思っています。
- ⑪ 北海道:小田進一(北海道文教大学附属幼稚園園長/北海道文教大学人間科学部こども発達学科教授)、山本里美子(北海道文教大学附属幼稚園主任)、梁川千尋(北海道文教大学附属幼稚園教諭)
テーマ:園敷地内終日自由選択活動(あそびまつり)から学んだこととそれを活かした行事(発表会)の実践
 園敷地内終日自由選択活動(あそびまつり)は、自分の選んだ場所、遊び、タイムスケジュールで一日を過ごすことのできる活動である。子どもたちの声に丁寧に耳を傾け、主体的に遊び続けることができるための援助をすることにより、教師は多くのことを学んだ。その学びを日々の活動に活かすこと、さらに、教師主導になりがちな行事に活かすことで、子ども達主体の「発表会」へと変化していった。
- ⑫ 東京都:黒崎知子(武蔵野東第一・第二幼稚園学年総主任)、依田卓(武蔵野東第一・第二幼稚園副園長)
テーマ:年長児の伝えあいから生まれる遊びや生活～教師の援助の工夫を振り返りながら～
 年長クラスでは、4月の生活をつくることから、子供たちが主体的に進めることを意識して教師の援助が行われていく。その後、音楽会、お泊り保育などの行事、また自分たちでやりたいと企画した活動などを、子供たちの伝えあい、話し合いを通して進めていくようになっていく。その子供の姿を追い、学びや育ちを捉えながら、教師がどのように援助をし、何を援助の課題や悩みと感じ、工夫していくのかについてまとめたことを発表する。
- ⑬ 大阪府:木輪泉美・安達まどか(ひじりひがし幼稚園教諭年中組担任)、中島篤史(ひじりひがし幼稚園教諭年長組担任)
テーマ:この子とどうやって関わろう ～気になる子で終わらせないで～
 保育の中で気になる子どもの姿からマッピング・エピソードなどの手法を用い子どもを知ることから始めた。その中で、子どもの困り感を探ることで保護者の姿や悩みが見えてきた。保護者と一緒に歩幅を合わせ、子どもの育ちを見守った一年間を事例を基に発表。
- ⑭ 大阪府:鍋野温香・畑中菜摘(学校法人ひじり学園幼保連携型認定こども園せんりひじり幼稚園教諭)、安達かえで(学校法人ひじり学園幼保連携型認定こども園せんりひじり幼稚園副園長)
テーマ:わたしたちが大切にしてきた主体性 ～子どもの自ら育つ力を信じて～
 子どもの主体性はどのようにして育まれていくのか。3歳児から5歳児の年齢ごとの事例をドキュメンテーションにし、子どもの心がどんな時に動き、その時に必要な保育者の対話的な関わり、環境構成、教材研究等に視点を置いて考えた。
- ⑮ 佐賀県:竹下菜々美(学校法人高岸幼稚園教諭)、田中宣子・田中康平(学校法人高岸幼稚園講師)
テーマ:年長児の協働的な創作活動と作品の発表における ICT の活用
 高岸幼稚園では、平成26年度より年長児の正課保育の中で、iPad等ICTの活用も含めた協働的な創作活動を行っている。「つくる、つたえる」をテーマにカリキュラムや指導案を用意し、改善を重ねながら、子どもの育ちや学びに寄与する様に努めている。グループで1台のiPadを活用して創作した作品をクラス内で発表する活動から見えてきた子供の姿や指導側の関わりについて発表する。
- ⑯ 兵庫県:菅原智美(認定こども園七松幼稚園主幹保育教諭)、横山菜奈((認定こども園七松幼稚園保育教諭)
テーマ:5歳児の話し合いでの成長と学び
 5歳児クラス31名が、クラスでの日々の活動の中で、様々な課題について1年間話し合った。その中で子ども達同士が、問題解決をしていくことにより、個々の子ども達の成長と、クラスでの在り方について研究発表する。

- ⑰ 大阪府:伊東桃代(常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園主幹保育教諭)
テーマ:「みんなく」眠るってどんなこと?眠るって大事?生活習慣を整えることの重要性を考える
「眠る」という当たり前のことができずにいる子どもたちが増えています。「みんなく」(眠育)として、「眠る」ということを軸に捉え、生活リズムを整えることで子どもが変わっていくことを自園の含まれる中学校区の中学校、小学校、こども園、幼稚園、保健センターで取り組んできています。これまでの経緯やこれからの思いを含めて発表したいと考えています。保護者によるアンケートや啓発ポスター作成、就学前から小学校へのつながりや教科書作成、絵本製作に広がってきました。
- ⑱ 高知県:田中裕子・窪田由美子・前田沙紀(認定こども園高須第2幼稚園教諭)
テーマ:特別支援における環境のありかた
本園では、特別な支援を要する幼児が、集団生活を送る中で周りの幼児と育ちあい、成長していけるよう専門機関や保護者の連携、職員会での協議のもと日々の保育を実践しています。今回、本園の保育の在り方を振り返り、また特別支援教育における環境の在り方について協議を深め、全国の幼稚園において、今回の研究テーマに課題を抱えている先生方からも様々な意見等を持ち帰り、今後の保育実践に活かしていきたいと思えます。
- ⑲ 石川県:森田理恵・礪野由子(木の花幼稚園クラス担任)
テーマ:保育環境を考える～園舎・園庭・地域の視点から～
金沢の武家屋敷で生まれた木の花幼稚園。加賀百万石の城下町の地域を土台に武家屋敷をルーツに、子ども達の育ちを紡いで111年。今の家庭や地域では出来ない遊びや生活、体験の場として、子ども達の学び、育ちの力をどのような環境が生み出しているのか?を考えます。
- ⑳ 神奈川県:内山敏和(学校法人鴨居学園鴨居幼稚園主幹教諭)、石渡佳奈(学校法人鴨居学園鴨居幼稚園教諭)
テーマ:暮らしの中から見つめる身体能力の向上(成育歴を視点に)
幼稚園生活で日常的に起こる活動中の転倒等によるケガ。しかし、同じような状況で転倒をしてもケガに至らない場合と大きなけがにつながるケースが存在する。また、一般的に見て『ケガが多い子』の存在も感じる。このような状況を『感覚的』に捉えるだけでなく、成育歴のアンケート調査や日常生活の詳細な行動観察など『客観的』な視点で見つめ直し、特別な練習ではなく生活(暮らし)の中で発達を促していく契機として今回の発表を行う。
- ㉑ 北海道:梅原健吾・佐藤瞭・齊藤巧馬(はやきた子ども園保育教諭)、小田進一(北海道文教大学教授、北海道文教大学附属幼稚園園長)
テーマ:保育現場における複数男性教職員の期待とその実現に向けて～9名の男性教職員による保育実践を通して～
女性の職業と捉えられてきた保育職であるが、はやきた子ども園では9名の男性教職員が保育を始め、様々な業務や役割を担っている。近年では、男性教職員が在籍する園も増えてきたが、これほどの人数の男性教職員が働く現場は多くないであろう。本研究では本園の実践から、男性教職員に求められる期待を複数配置により実現させることへの可能性を考察していきたい。
- ㉒ 岐阜県:先山香代子(天使幼稚園副園長)、杉山章(東海学院大学准教授)
テーマ:外部講師を活用したOJTによる気になる子や障がい児の事例検討を利用した職員研修の実践
H27年度より、月に1回程度、講師を招き園内研修会として、気になる子どももしくは障害のある子どもの保育についてインシデントプロセス法による事例検討会を実施した。講師は午前中に対象児が在籍するクラスの保育参観をした上で、保育後の保育職員全員参加の事例検討会に参加した。その結果、事例検討会の意見を自身の保育に反映する職員の姿が見られたり、職員室で子どもの話が以前より活発になされたりしている。
- ㉓ 東京都:田中藍子(やはたみずのとう幼稚園教務主任)、関政子(やはたみずのとう幼稚園園長)
テーマ:お手紙ごっこから見えてくるもの 手紙を通して“伝えたい”子どもたちの思い
当園では「お手紙ごっこ」に取り組んで今年で3年目になる。ここでは、配達を楽しむ子、ポストに投函することを楽しむ子、書くことを楽しむ子などと、「お手紙ごっこ」という遊びの中で、それぞれが楽しむポイントが異なっていることに気づいた。そこで、本研究では届いた手紙の内容に着目し、誰が誰に書いているかということを知り、手紙への子ども達の思いをインタビューすることで、「お手紙ごっこ」で子ども達がどんなことを相手に“伝えたい”と思っているのかを調査、分析し研究することとした。
- ㉔ 北海道:伊藤詩織(学校法人リズム学園恵庭幼稚園教諭)、長谷川景子(学校法人リズム学園恵庭幼稚園教頭)、井内聖(はやきたこども園、学校法人リズム学園学園長)
テーマ:4歳児が遊びを通して素材と出会い、自己実現へつなげる過程
本研究では3歳児と4歳児に同時期に同素材を提供し、素材に対する関わり方や遊び方、自己表現などを比較し、4歳児が遊びを通して素材と出会い、自己表現へつなげる過程について考察をすすめる。3歳児と4歳児の発達の違いを素材を通して明確にし、子ども達を深く理解することで一人一人の育ちを援助する一助としたい。

- ②⑤ 大阪府: 中村斉子(関西女子短期大学附属幼稚園副主任)、稲垣晃子(関西女子短期大学附属幼稚園教諭)
テーマ: 子育て 親育ち
「幼稚園ってどんなところ?」「何して遊ぶのかな?」と、ドキドキして登園してくる子どもたちと、不安な面持ちで緊張しながら登園される保護者の方々とでスタートするぴよぴよ(未就園児)クラス。我が園の特色である絵画制作に取り組むことによって、大胆な表現を楽しめるように計画を立てました。最初は手が汚れないように紙粘土で手のひらをしっかりと使ってお団子作りを楽しみました。次に、そのお団子に可愛い色の絵の具を指で塗って並べて遊びました。だんだん手が汚れるのが気にならなくなると、色々な材料に絵の具で自由に伸び伸びと身体一杯で表現を楽しめるようになりました。その後、戸外でどろんこ遊びもできるようになり、子どもたちが目を輝かせて大胆に遊ぶ姿は、親の気持ちも変化させたようでした。親も子ども共に育ちあって自立へと繋がっていくのだと実感したことを、発表したいと思います。
- ②⑥ 栃木県: 塩田麻未(認定こども園七井幼稚園保育教諭)
テーマ: 保護者が年間延べ4,000人来園!!
我が園は保護者が自由参観やボランティアなどで年間延べ4,000人が来園する。保育参観、盆踊り、運動会、発表会、作品展等は含まれていない。2年前から、認定こども園になり共働きも多く忙しいと思われる中、なぜ保護者はたくさん園に来るのだろうか?そしてそれは園の運営にどのような影響を与えているのか?今後もこのような園でよいのだろうか?アンケートによる私たちの調査を報告し、皆さんから様々な感想をお聞きしたいと思います。
- ②⑦ 広島県: 中丸元良(かえで幼稚園園長)、見山惟章(かえで幼稚園主幹教諭)、小林あゆみ(かえで幼稚園教諭)、中丸創(かえで幼稚園教育補助員)
テーマ: 幼稚園における戦いごっこ研究～戦いごっこやって委員会～
戦いごっこは制限すべきものではなく、まして禁止すべきものでもない。それは推奨されるべきものである。三学期の戦いごっこの観察をふまえてこうした確信を得た我が園では「戦いごっこやって委員会」を設置し、一年間戦いごっこを観察しつつ、戦いごっこを五領域における人間関係・環境・表現などの側面との関連を見いだしながら考察していくことにした。今回は一学期を終えての中間報告として、まとめと今後の方向性について発表したい。
- ②⑧ 宮城県: 三塚薫(緑ヶ丘第二幼稚園園長)、佐藤由唯・阿部佳織(緑ヶ丘第二幼稚園教諭)
テーマ: 遊びを通しての総合的な活動の指導
26年度から園内研修でポスターづくりを進めてきた。保護者会などで掲示することにより、園の教育についての保護者の理解が深まっていると感じ、続けている。28年度の園内研修は、教育要領の改訂を前に、幼児教育において育みたい資質・能力を踏まえながら、日頃の実践を振り返り、遊びを通して行う総合的な活動の指導のあり方を見直す園内研修を行った。実践の一例として砂場遊びを取り上げ、遊びの経過、展開をポスターにまとめた。今年度はポスターを基にさらに幼児の総合的な活動について考察を深めていきたい。
- ②⑨ 兵庫県: 大瀬良知子(神戸女子大学附属高倉台幼稚園管理栄養士)、小林美佐子(神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長)、栗原伸公(神戸女子大学家政学部教授)
テーマ: A2-II: 幼児の健康管理(健康管理実践) 食育(栄養管理) 大豆製品に着目した好き嫌い改善と摂取頻度向上のための実施とその評価 一家庭への波及効果に着目して～
本園では、昭和63年より完全給食を実施している。また、食べることは生きる基本であるという理念に基づき、栽培活動など食育に関する活動を数多く実施している。大豆は植物性たんぱく質の主要な供給源であり、醤油や味噌など様々な食品に加工され、日本食に欠かせない食品である。しかし、日常の利用率は高いとは言えず大豆製品が嫌いな幼児も多い。そこで、週4回実施している給食で大豆製品が提供された際にはその食品に着目したり、様々な豆を栽培したりという活動を行った。本報では、家庭への波及効果に着目して、その評価を行う。本研究は不二たん白研究振興財団研究助成により実施した。
- ③⑩ 兵庫県: 木村奈帆子(神戸女子大学附属高倉台幼稚園副園長)、濱田恵(神戸女子大学附属高倉台幼稚園主任)
テーマ: 輝け、笑顔! 友だちと共に 心を動かし 体を動かし 遊び込もう
幼児が様々な事象に心を動かし、考え、自ら働きかけて遊ぶことで、笑顔を輝かせて生活してほしいと考える。幼児が園生活を通して心を動かす経験を積むためには、どのような環境を準備していけばよいのか、また、幼児が伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさを感じ、遊び込むためには生活の流れや環境をどのように再構成していけばよいのかを研究し、実践していく。
- ③⑪ 神奈川県: 亀ヶ谷元讓(宮前幼稚園主任)、岩本和奏・沖永なつみ(宮前幼稚園教諭)
テーマ: ポートフォリオ2年目の進化 ～保育者間の共有から深まる子ども理解～
昨年、本園で取り組んでいるポートフォリオ。文章のみのエピソード記録から写真を用いた記録に変わったことで、保護者との共有だけでなく、保育者間でも子どもの姿の共有が出来るようになった。今回の研究では、ポートフォリオ作成による「保育者間の共有」にスポットを当て、園内研修を行い、より深い子ども理解のための方法を検証していく。

- ③② 北海道:赤坂美咲(認定こども園ひまわり幼稚園教諭)、岡健吾(札幌大谷大学短期大学部保育科准教授)
テーマ:年長児の自然体験活動プログラムの一試案～幼児教育現場と養成校の連携による教育実践～
 幼児期の自然体験活動の取り組みについて、主にカヌー体験と冬の外遊びについての実践報告を行う。報告では、教諭と養成校教員の連携によるプログラムの計画と実践の詳細な過程に併せて、体験を通した幼児の姿を示す。展望として、幼児期の自然体験活動の重要性についても触れてみたい。
- ③③ 奈良県:宮本忠史(畿央大学附属幼稚園園長)
テーマ:残食に注目した、食育の取り組みについて
 昨年より給食の残食を記録し、4月～3月までの給食の残食を追跡調査しその残食の変化と給食のメニューの在り方について分析した。また、残食の多い園児については、具体的に食材まで追跡し嫌いな食材を食べることができるように指導した取り組みを発表する。
- ③④ 大分県:新宅由規・森山依里・江藤加奈((学)三信学園やまばと幼稚園教諭)
テーマ:植物と生物のかかわりを通した子どもの育ち
 園の敷地に蛙やサンショウウオ、バッタ、かまきり、蟬などの生き物がたくさん生息している。また、向日葵や朝顔、トマト、キュウリ、薩摩芋などの植物も毎年、育てており、育てる過程で、成長している変化に気付き、共に喜んだり、不思議に思ったりなど、自然に対して興味や関心を持つ心を育てていきたいと思い、「植物と生物のかかわりを通した子どもの育ち」というテーマを設定しました。
- ③⑤ 香川県:吉田善政(認定こども園亀阜幼稚園園長)、新井博美・植村咲妃(認定こども園亀阜幼稚園教諭)
テーマ:メモを活かした保育の実践
 メモを取ることで子どもの発想、思い、感覚、取り組み等の素晴らしさを取り入れることができると考え、7年前から、メモを活かした保育を実践している。日々のメモを、園児一人ひとりの個票に、5領域に分けて整理することにより、長期的に、その子のよさや育ち、可能性を発見するとともに、育てたい姿等をふまえた保育のあり方についても提案したい。また、メモを持ち寄り語り合う「メモ会」を、どのように積み上げていけばよいかも提案したい。
- ③⑥ 神奈川県:岩澤萌夏・兼房里絵(西鎌倉幼稚園教諭)
テーマ:クラスだよりとは? ～保護者に熱い想いを伝えたい!!保護者と育ちを共有したい!!～
 西鎌倉幼稚園では、幼稚園での子どもの育ちをクラス便りとして、二週間に一度保護者向けに発行しています。そして今、保護者へ伝えることや、共有することの大切さに改めて気付き、クラス便りを見直しています。その結果、子ども一人ひとりの成長や、活動の中での様子をより丁寧に考えるようになりました。また、結果だけでなく、成長の過程を伝えたいという想いも深まってきました。本発表では、園全体の取り組みとして、クラス便りをどう変化させていくか考えていきます。
- ③⑦ 京都府:山田剛史・林萌子・池野美奈子(泉山幼稚園教諭)
テーマ:相互理解を大切にしたい子育て支援 ～子どもも楽しい、保護者も楽しい 子育て支援～
 子どもが子ども時代を豊かに過ごすことができる泉山幼稚園として赤ちゃんから6歳までの育ちを提案しています。入園前の子育て支援クラスの様々な活動の中で子どもも保護者も楽しくその時期に育つことを丁寧に見守り、保護者と育ちを共感し少しずつ集団生活へ入っていけるようにしています。実践していることをまとめその時期に大切な育ちや環境について振り返り発表します。
- ③⑧ 京都府:松原静華・茅房奈穂・服部瑞華・北畑大和(泉山幼稚園教諭)
テーマ:心がおどる保育のしかけ ～子どもの内的課題の連続性を重視したカリキュラムマネジメント～
 泉山幼稚園は、子ども主体の遊びや活動を通して自ら学ぶ姿を大切に支えながら保育をすすめています。遊びや活動の中で子どもの内的課題の連続性を重視することに着目した保育を心がけ積み重ねていくことで、子ども達はどのように育っていくのか検証し、子どもが自ら選ぶ遊びと保育者から提案する遊びの連動性や活動の動機付けなどが重要であることについて考えたい。
- ③⑨ 兵庫県:西浦友梨(学校法人小寺学園幼保連携型認定子ども園はまようちえん預かり保育リーダー)、大野更紗(はまようちえんナーサリーキャプテン)、中山 奈穂(ようちえん副キャプテン)
テーマ:カベ のないはまよう保育
 はまようちえんの保育には、「カベ」がない。どこでだれと遊んでも大丈夫、「カベ」のない部屋、「カベ」のないスタッフ、子どもたち主体のプロジェクト保育…ひとりひとりの意欲を保障して、多様な環境で過ごすことで、子どもたちがどのように育っていくのかを発表、考察する。

【平成 29 年 6 月 30 日現在】